



1 学力向上検討委員会構成

学 力 向 上 検 討 委 員		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校長 教頭	橋本敦子 掛田千津子
学力向上推進員	研究・情報課長	松山睦
委員	事務課長, 指導教諭, 幼稚部長, 小学部長, 中学部・高等部長, 渉外・安全課長, 教務課長, 生徒活動課長, 人権・キャリア教育課長, サポート課長, 寮務主任	島田昌彦, 樋口恵子, 佐藤環, 濱田純代, 相澤浩樹, 喜多恵子, 杉本和美, 森美智仁, 浅野陽子, 原口愛, 富永崇仁

2 学力・学習状況における現状分析, 目標等

【3つの視点】

- (1)基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

(幼稚部) 幼児児童生徒の状況		
よさ	教員が絵本を準備すると, 期待を持って読み聞かせの始まりを待っている。また, 教員が図鑑を広げて調べていると, 一緒に図鑑を見て探そうとする。	課題 自ら絵本を読んだり, 図鑑で調べたりすることは少ない。好きな絵本が見つけれない。
具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	達成状況
絵本や物語などに親しみ, 興味をもって聞いたり見たりする。	・年間70冊以上, 絵本の読み聞かせを行う。 ・月に3冊以上, 絵本の貸し出しを行う。	・各学級で, 年間のべ70冊以上の絵本の読み聞かせを行った。 ・年長児は月に3冊以上絵本の貸し出しを行った。年少, 年中児は, 貸し出し冊数が指標数値より少なかった。
		評価 C
具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
絵本の読み合わせを行い, 手話表現を確認する。その絵本を使っておはなし会を開き, 3冊の中から好きな絵本を選んで聞くことができるようにする。	・月に1回以上, 絵本の読み合わせを行う。 ・年に3回, 絵本や紙芝居を使ったおはなし会を開く。	・読み合わせは1回行ったが, 継続できなかった。手話表現の確認は各自で行った。 ・おはなし会は年3回行い, 絵本の内容から発展した活動も行った。幼児も絵本の世界に引き込まれていた。
* 中間期の見直し		
達成状況を踏まえた改善事項		

教員が行う絵本の読み聞かせを幼児は楽しみにしており、絵本の登場人物や内容について話をするこ
ともある。家庭に絵本が少なかったり、保護者が絵本を読むことに苦手意識をもっていたりするので、家
庭で絵本が読めるような支援の在り方を検討する。

(小学部) 幼児児童生徒の状況

よ さ	児童は明るく素直で授業にも積極的に取り組んでいる。授業においては児童一人一人の課題を重点目標として配慮して取り入れ、生活の中でも、ことばの種まき等に取り組み効果を上げている。	課題	聞こえにくさから言葉や助詞等の正確な文法、読解力を身につけることが難しい児童が多い。言語環境を整え、国語では1年から6年まで聴覚障がいの子の特性に配慮した一貫した指導ができるようにすることが必要である。
		成果指標	達成状況
言葉を広げて国語の理解力や表現力、読解力を高め、学習に主体的に取り組む。		J.coss(日本語理解テスト)やリーディングテスト(読書力診断検査)の読解力テストにおいて正答率が向上した児童の割合を80%以上にする。	J.cossの正答率が向上した児童の割合は88%、リーディングテストでは80%であった。児童一人一人が課題達成に向けて努力することができた。
		評価	B
具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況
国語科や自立活動の授業において、言語や文法、読解力の向上に効果的な指導方法について検討するとともに、教員の手話力の向上を図ることにより、児童の言語環境を整える。		・国語科や自立活動で効果のあった授業の指導事例をまとめて集録を作成する。 ・学部で指導方法についての発表会を1回以上実施する。 ・手話研修を月2回以上実施する。	・各教員が実践を出し合っ て、事例集としてまとめ、他の教員が閲覧できるようにした。事例の発表会を3月に行った。 ・手話研修は月2~3回実施して手話力を向上させることができた。
* 中間期の見直し			
達成状況を踏まえた改善事項			
今後も各教科や自立活動、日常生活で児童一人一人の言葉や文法等の課題に配慮した指導を積み重ねていく。児童の個別課題を分析して指導に生かせるような方法を検討したい。また、経験の浅い教員も効果的な指導ができるように指導の参考となる事例を共有できるようにする。校内で作成した手話のDVDは学部や個人の研修で効果的に活用できたので枚数を増やしたい。			

(中学部) 幼児児童生徒の状況

よ さ	中学生として、学習の意義について理解が進んできている。どの学年も与えられた学習課題について、こつこつ取り組む姿勢が身に付きつつある。	課題	基礎学力の定着を図るためにも、個々に応じた適切な学習課題の提供や、学習時間の確保について指導する必要がある。
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
個々の学習課題を適切に捉え、克服しようとする		「朝学習の時間」に70%以上が参加する。	毎朝、時間になると自主的に教室に入り、登校した生徒は全員朝学習に取り組むことができた。
		評価	A
具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況

<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習の時間を設定し、生徒が進んで学習する環境づくりをする。 ・自分の力でできる学習課題を適切に提供し、家庭学習の自立を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・8:30～8:40の間を「朝学習の時間」とし、生徒一人一人の学力に合った課題をさせる。 ・毎日家庭学習の時間が1時間程度確保できるような課題を提供する。また、自主学習を奨励する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各担任が、生徒の実態に合わせた課題等を作成・準備して実施させることができた。 ・毎日1時間程度の家庭学習の課題を作成・準備をし、自主学習を奨励したが、全員が実施できるまでには至らなかった。
* 中間期の見直し		
達成状況を踏まえた改善事項		
生徒や保護者との面談等を通じて、自分にあった課題や目標を明確にさせるような支援をしていきたい。目標設定をすることで、計画的に学習が進められる生徒を育てたい。		

(高学部) 幼児児童生徒の状況		
よ さ	卒業後の進路を、一人一人が真剣に考えるようになった。そのことから、学力や資格の必要性を感じるようになり、こつこつと検定や資格試験に取り組んでいる。	課題 継続的に受験しているものについては、受験の級が上がったため、合格がかなり厳しくなっている現状がある。また、その受験者は上級生であるため、本来の自分の進路決定も迫り、課題が大きい。本取組について、バランスを取りながら指導や支援を進める必要がある。
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標
目標をもち、積極的にチャレンジする。		生徒それぞれが、希望する進路に沿った資格や検定、模擬試験等に挑戦し、受験者のうち70%が目標を達成する。
		上位の級にチャレンジする生徒も含めて、7人中5人(71%)が目標を達成した。卒業生3人もそれぞれ希望する進路に就くことができた。
		評価 A
具体的方策(教員の取組)		取組指標
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒個々の進路目標に沿った、資格や検定情報等の収集と生徒への提供を行う。 ・合格に向けた特別指導(補習等)や課題の提供を行う。 ・昨年度の自己記録を上回る級の検定や資格試験、模擬試験等に挑戦するよう勧める。 		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒個々に適切な資格、検定等の情報を年間1回以上提供する。 ・検定等の合格に必要な課題を各検定前2ヶ月の間、1週間に1回以上提出させる。
* 中間期の見直し		<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は、検定の種類を増やすことよりも、新入生に対してこの取組を意識付けることに注力した。 ・HR担任、教科担任が連携して熱心に指導にあたった。放課後の補習や課題提出等の取組で、学力の向上を進めた。
達成状況を踏まえた改善事項		
こつこつと漢字検定や英語検定に取り組んでいる生徒にとっては、目標の級が高くなっていった合格が困難になった。ただ、本年度も高3生が英検準2級や3級に一次試験まで合格している。その内準2級挑戦者は2次も合格できた。試験日ぎりぎりまで補習等で教師と一丸となって取り組んだ成果である。努力の結果、目標を達成したことの充実感を体験し、学力に対する自信につながっている。成果指標の数字達成にこだわらないで、今後も取り組みたい。		